学校番号 稲武小学校

76 全校児童数 58名 (男子32名 女子26名)

運動大好き！いなぶっ子の育成

「柔軟性・投力」を高めるために

1.体力テストの現状と課題

本校の体力テストの結果は、各学年において市平均を下回る種目がいくつかあった。昨年度の結果と今年度の結果を比較すると、ソフトボール投げと柔軟性に課題があると感じた。こうした子どもたちの体力の低下には、学区に公園がないことや冬季に運動場が凍結して遊ぶことができないことが、少なからず関係していると考える。そこで、学校での教育活動において、多様な運動を味わったり、「できた」「楽しい」が実感できたりすることで、生涯スポーツの観点から子どもたちの体力向上を支えていきたい。

2.実施内容

（１）教科体育での実践

【いなぶサーキットに挑戦！】

マット運動、跳び箱運動の授業において、ウォーミングアップの一環として「いなぶサーキット」に取り組んだ。ペア・グループで準備運動後、いなぶサーキットに取り組むという授業の流れとなっており、十分な運動量を確保することができた。サーキットには、７種～１０種ほどの種目があり、各領域で必要なストレッチや運動要素が経験できるようになっている。何より、子どもたちの様子を見ながら難易度を変えたり、種目の組み合わせを変えたりと、何通りも考えることができるため、毎時間楽しみながら運動に取り組む子どもたちの姿が見られた。「楽しい」を「できた」に繋ぐ効果的なものであったと感じた。

（２）教科外体育での実践

【とよたスポーツ体験講座の実施】

とよたスポーツ体験講座を活用し、体育の学習を進めた。低学年では、トヨタ自動車レッドテリアーズの投げ方教室、中学年ではヴェルブリッツのタグラグビー教室、高学年では、トヨタ自動車レッドクルーザーズのＴボール教室を行い、それぞれの体験をした後に低学年では、体つくり運動やボールゲームなどの投げ動作を伴う運動、中学年では、ゴール型ゲーム、高学年ではボール運動ベースボール型の単元を進めたことで、意欲的に取り組む姿が多く見られた。教材は、スポーツの種目をそのまま行うのではなく、ルールや場などの条件整備をし、技能差を少なくしたことで、全ての子に得点チャンスが生まれ、運動の楽しさや喜びに触れることができた。

3.成果と来年度に向けて

今年度は教師が意図的に授業に様々な工夫を施したことで、単元を通して学びに向かう力を高めながら学習を進めることができた。

来年度は、体力テストの結果から課題を検討した上で、スポーツ委員会や児童会など、子どもたちが中心となって、自ら進んで体を動かせる機会をつくっていきたい。

また、マラソン大会や校内なわとび大会、スキー教室などの体育的行事を継続して実施しているため、それらの行事が目的になるのではなく、その経験を通して体力向上や健康の保持増進を図っていきたい。